

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	令和7年度 旧本郷一小跡地（仮称）ほんごうパーク管理運営検討会（第7回）
開催日時	令和7年12月16日（火）18：30～20：30
開催場所	COBACO
出席者	参加者：8名 小野、柏村、齋藤、佐藤（信）、竹内、西田、根本、松田 事務局：5名 建設水道課 課長補佐 佐藤、管理係長 金田、主任主査 猪俣 事業受託者 株式会社コムテック地域工学研究所 小浦、脇門
議 題	1. 第2回町民懇談会(11/27)の結果について 2. ふれあい町長室(11/26)の結果について 3. 管理運営に係る概算費用案について 4. 任意団体の立ち上げに向けた検討状況 5. 今後の予定・連絡事項
資料の名称	・次第 ・資料1（第6回管理運営検討会 議事録） ・資料2（管理運営における収支等の試算） ・資料3－1（事例：公園等の管理運営団体の収益事業） ・資料3－2（事例：公園等の維持管理における住民参加とコスト低減） ・資料4－1（今後の活動スケジュール） ・資料4－2（来年度（令和8年度）活動計画案） ・資料4－3（助成金情報）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>上記の議題について資料をもとに事務局より説明。 意見概要は下記のとおり。</p> <p><b>1. 第2回町民懇談会(11/27)の結果について</b> 事務局より下記について口頭報告をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の概算工事費（約15億円）を提示したこと</li> <li>・参加者からの意見（概要）</li> </ul>	

## 2. ふれあい町長室(11/26)の結果について

ふれあい町長室へ参加した町民(●)より町長との話し合いの結果を報告し、検討会出席者(○)間で意見交換をした。

●本郷こども園が本郷学園(前期課程)の校庭へ移転されることについて、PTAへ周知がされていないこと、PTA向けのアンケートを実施してほしいことを町長に伝えた。

○本郷こども園移転に関する会議には前PTA会長が出席していたので、PTAに対して情報が何も知らされていなかったわけではない。その後、どのように周知していたかは分からない。

○本郷学園の校庭への移転の経緯については、教育委員会としては現在の本郷こども園の敷地に乳児部と幼児部を合築して建て替えたかったが、市街化調整区域であることから面積を変更できないため、他の場所への移転を検討したところ、幼少中一貫教育を進められることから、本郷学園の校庭に設けることとしたと理解している。

●本件は、移転の経緯より、教育委員会から保護者に対して説明がなかったことが問題で、どのように説明するかの方が重要である。

●教育長にも、本郷こども園の移転先として旧本郷第一小学校跡地が入らなかった理由を確認した。令和3年3月の住民説明会で町から跡地への移転案を提案したが、反対意見が多かったため、町は断念したとのことだった。私は、校庭を潰してほしくないこと、子どもたちの遊び場を奪ってほしくないことを伝えたが、一方で、本郷学園の校庭へ移転する考え方も説明していただき、そのメリットも理解した。しかし、保護者には何も知らされていないのが問題であり、アンケートを実施するように依頼した。本郷学園が設立された時も事前の説明がなく、決定事項を突然告げられた。

○直近では分からないが、本郷こども園を本郷学園の校庭へ移転することについては、過去にアンケート調査や住民説明会も実施している。移転により校庭が狭くなる点については、教育委員会でも問題がないように検討しているはずだ。

●アンケートは、本郷こども園の保護者が対象で、本郷学園の保護者には実施していない。

○旧本郷第一小学校跡地に本郷こども園を移転するとすると、跡地の面積の半分くらいを使うことになる。さらに駐車場も整備すると、これまで跡地の利活用で検討してきたことが全く変わってしまう。みんなで検討して計画にまとめてきた経緯があり、尊重する必要がある。

●自分は敷地を全部公園に使う必要はないと思っている。

○これまでの経緯の話をしてここでは整理できない。問題は、現役の保護者に対して、きちんと説明がされていない点である。まずは計画を共有する期間はあった方が良くと思うが、それについては、町長や教育長には伝えているので、対応を待つしかない。

## 3. 管理運営に係る概算費用案について

事務局より、資料2、資料3-1、3-2について説明し、質疑応答を行った。

・かなりの費用がかかるが、イベント等で収益を上げて赤字になり、継続が難しくなった場合はどういう扱いになるのか。

→(事務局／事業受託者)すごく大切な視点である。管理運営費用の大部分は行政経費であり、いかに税金の無駄遣いにならないようにするかが重要。指定管理者が全てを負担するわけではなく、協定により行政から一定程度の費用が指定管理者に支払われる。契約違反がある場合は、指定管理者の責任になる。

→(事務局／事業受託者)費用を抑えるには、事業費も併せて考える必要がある。例えば、15億円の整備費を10億円に縮小することや、数億円から始めて段階的に整備し、それに併せて管理運営費も最初は業務委託として数百万円程度から始める等のやり方も選択肢としてあり得る。

#### 4. 任意団体の立ち上げに向けた検討状況

事務局より資料4-1、4-2に基づき任意団体の立ち上げに向けた検討状況を説明した後、コアメンバーからそれぞれの考えを話した上で、今後の進め方について意見交換をした。

- ・来年度から町が公園の整備に向けて動き出すとすれば、指定管理者としてどう運営していくかの議論になる可能性があるが、整備は先送りになることもあり得る。その場合、来年度にどのような活動をするかは、関わっている人それぞれに意見があると思う。
- ・公園が整備されない場合、原っぱの状態でも子ども達や地域の方々に使ってもらうことを促す団体になると思う。その場合、指定管理者を目指すという前提がなくなり話が大きく変わってくるが、その時、どれだけ活動メンバーや使いたい人が集まるかは未知数。
- ・せと市やマチミセ本郷などのイベントは、旧本郷第一小学校跡地で今後も継続的に実施するものでもない。水遊びは引き続き実施できるかもしれないし、盆踊りも今後跡地で開催する可能性がある。
- ・見守り活動を続けるどうかは、プレハブの費用を町で確保できるかどうかによるため、現時点でははっきり分らない。もし町の支援が得られない場合、自分たちが活動を続けていけるのか、仮にプレハブを設置できても、運営に参加できる人を集めることができるのかなど、年度末に向けて検討する必要があると感じている。
- ・公園の整備が進まないから解散という判断もあり得るかもしれないが、子どもたちが期待してきた面もあり、関わった人間として何らかのフォローは続けたいと考えている。
- ・資料4-1（スケジュール表）にある通り、町は引き続きこの活動に関与するものと考えて問題ないか。

→(事務局／町) スケジュール表はコアメンバーとコンサルで作成したものだが、町も一緒にやっていければと思う。

- ・公園をどのように盛り上げていくかは町民が自発的に考えていくことで、これまで年々続いてきた活動のひとつと捉えており、町に言われてやっているものではない。そのような意識が今後は問われると思う。
- ・その通りだと思うが、団体が設立されても町が協力しないと困る。管理運営に関わる一員として動いてもらないと、住民だけでは限界がある。組織を一人前にしていく責任の一端が町にもある。町にはその覚悟があるか。

→(事務局／町) 来年度からはできるだけ任意団体の力だけで活動して行けると良いと

考えているが、町が関与しないということではなく、できるところはサポートしていきたい。例えば、プレハブの設置費用を町が負担し、活動は任意団体で検討して実施していただくという形もあり得る。また、イベント開催のための諸経費については、既存の補助金制度を活用することも検討できないか考えている。

- ・公園整備の見通しが立っていない点が心配である。原っぱのままで、いつまで活動を続けていくことができるのか。
- ・(事務局／事業受託者)資料は、新しく設立される任意団体が旧本郷第一小学校跡地を活動拠点とすることを前提としたスケジュールになっている。跡地の利用が、来年度は良いが、再来年はどうなるか分からないという状態だと、団体を作る意味が薄くなってしまう。町としては、基本的に跡地を活動拠点として使う方向であるというスタンスを示してほしい。その前提がないとなかなか進められない。施設の整備をするかどうかはこれとは別の話になる。
- ・今の旧本郷第一小学校跡地に、あまり子どもが遊びに来ないのは、魅力がないからだと思う。その理由は、更地のままの状態が何年も続いているから。だいたい先に15億円で全部作るという夢のような話ではなく、来年、何千万円かで一つ遊具を作してほしい。そうすれば遊びに来る。来年、再来年と一つずつ作り、毎年変わっていったら、さらに遊びに来るのではないか。そうしないと、子どもたちは卒業してしまう。10年経って何もできていなかったら、この町に子どもたちは帰ってこない。
- ・できるだけ手作りで、みんなで遊具等を作るイベントができないかと思っている。子ども達からアイデアを募集し、みんなで協力して作る。自分たちが作ったんだとなる。多くの人が集まって作ることが重要で、そうしないと、この公園の発展はないと思う。
- ・管理運営については、資料のパターンBのような形で、収益を得ることも重要。
- ・規約は一度作って終わりではなく、やりながら改正していけばよい。
- ・公園がどうなっていくかが決まっていない段階で法人を作るのは難しい。その前段階として、もう少し簡単に作れる任意団体を作り、助走期間として活動を積み上げていかないと、指定管理を受けることは難しい。でも、助走期間がいったい何年かかるのか。
- ・来年度の予算は決まっているので、来年度の遊具設置等は難しいだろうし、令和9年度に設置できたとしても、来年度は何をやるのかの問題が残る。目的にあった補助金を取って一気にやった方がやりやすいのではないか。
- ・助成金を取る話も出ているが、助成金もずっと取れるわけではない。助成金が使えうちに、方針が決まり、形になるように進めないと、だらだら続くだけになってしまうという懸念がある。
- ・まちなか賑わい創出事業も進んでおり、そちらにも参加している。自分は賑わい創出に関心がある。公園にも賑わいの要素はあるが、まちなか賑わい創出事業の方が賑わい創出の効果が高いのではないかと思っている。ゴールが見えない状態で、公園の方にリソースや時間を割く意味があるのか迷いがある。両方関われるのが理想だが、取捨選択が必要な状況では、公園の優先度が低くなってしまう。
- ・これまで旧本郷第一小学校跡地に関わってきたのは賑わいを作りたいからで、マチミセ本郷も主催してきた。昨年秋と今年の水遊びの時に実施したマルシェは跡地での実

証実験の意味もあって開催した。今は跡地に何も無い状態なので、イベントをやっても一日だけ賑わって終わりで継続性がない。建物も遊具も何もなく魅力がない。何か形にしていけないと意味がないと思う。何も無い公園でどうやって賑わいを出すのか。賑わいは人がたくさん集うことだと思う。だから、こども園や子育て支援センターが跡地に入ればぴったりだと思った。こども園が優先され、公園整備が後回しになって、結局何もできないとなるのは残念。こども園と公園の計画を見直して一緒に計画できないかと考えている。維持管理費も含めてすごくお金がかかる。少子高齢化でどんどん子どもが減っていく中で、こんなに大きい公園が必要だろうか。もう一度原点に戻って話をしても良いのではないかな。このまま何も進まないのならば、正直、まちなか賑わい協議会の方に軸足を置くか迷っている。

- ・見守り活動にもそれほど多くの子どもは来ていないので、来年もやる人がいればお願いしたいが、そこまでやらなくても良いのではと思っている。自分は賑わいで関わりたいので、見守り活動には関わっていなかった。
- ・今の状況では年度内の任意団体設立はなかなか厳しいと思う。
- ・一度に整備するのではなく、子どもが行ってみようと思える仕掛けを少し積み上げていく進め方は、行政として可能か。
  - (事務局／町)補助金は一体的な整備を対象とするため、2～3年で整備する必要があるが、現時点では補助金の目星がついていないので、段階的に整備していくやり方もあり得るかもしれない。
  - 整備を分割したとしても、こども園が優先されるので旧本郷第一小学校跡地には回ってこないのではないかな。任意団体等、ソフト面の活動に対して支援をして活動を継続させることはできると思う。
- ・こども園の整備を優先させながら、可能な範囲で公園整備を進めることはできないのか。
  - (事務局／町)最終的な着地点があって段階的な整備をすることはあるかもしれないが、概算費用 15 億円に対してそこまでやる必要があるのかとの意見も多く、不透明なため、現時点では考えられない。
- ・15 億円ありきではなく、計画を活かして内容のスリム化を図ることはできないのか。
  - (事務局／町)現在、その方針を町内部で検討しているところで、結論が出ていない。
- ・子どもたちと一緒に遊具等を作る等により、コストを下げることはできる。現状では、いつも変化がなく、子どもたちが遊びたくなるものがない。
- ・最低限の遊具設置は、これまでの経緯と話が変わってくるが、現実的に可能なのか。
- ・(事務局／事業受託者)本整備の前に実証実験の位置づけで、簡易的な遊具等を設置することはできないか。補助金に関しては、本整備と実証は異なるのでそういった対応も可能性があるのではないかな。
  - (事務局／町) 現時点では回答できないため、内部で検討する。
  - 補助金をもらって設置すれば事前着工になるのではないかな。
  - (事務局／町)補助金を使わないのであればそのような心配はない。
  - それでは、最終的にいつ公園ができるのか、とならないかな。
  - (事務局／町)仮設として設置するのであれば、検討の余地はある。

→助成金でうまく使えるものがあれば、実証実験をやっても良いのではないかと。

- ・(事務局／事業受託者) まちなか賑わい協議会の検討状況は分からないが、実証実験を補助する仕組みがあるので、まちなか賑わいの未来ビジョンでこちらの実証実験を位置付けていただくという方法もあるかもしれない。まちなか賑わいとは連携・連動して具体的に考えるべきと考える。これにより動線がつながり、本郷地域全体の賑わいに繋がることを説明できないか。

→(町) 今後関係課で協議し、今後の方針を考える予定。まちなか賑わいとの連携も視野に入れている。

- ・使われないのは何もないから、とはその通りだと思う。少しでも変わっていくとみんなわくわくする。しかし、現状では何もない状態が続き、それが当たり前になってしまっている。難しいかもしれないが、何かしらの変化がほしい。

例えば、以前、プレイリーダーの方にサッカーゴールやベンチを作っていただいたが、あれくらいのもがあるだけで一気に盛り上がる。過去の旧本郷第一小学校跡地でのイベントでは、簡易的なすべり台を作って遊んだ。実証実験として、そのような仮設のものを期間限定で作り、地域の人も手伝って子どもたちと一緒に作るような形であれば、それも賑わいだと思う。

- ・(事務局／事業受託者) 公園の管理や掃除をイベントにしてみんなで楽しみながら維持管理をしている地域もあり、それが賑わいづくりにもなる。そのような活動はこの地域であまり見られないので、会津美里町の個性として、子育て世代からは面白がられるかもしれない。そのような特徴のある運営でも個性を出すことができる。11月に跡地でイベントを実施した若松のプレイリーダーの方からは、まちなかで火を使える場所がないので、この計画は会津エリアでも価値があるとのことだった。それも個性であり、賑わいに繋がる場合もある。「賑わい」も色々な角度で考えられるのではないかと。
- ・(事務局／事業受託者) 任意団体等の検討をぜひ継続していただきたい。運営への関与を完全に手放すと、町直轄のただの空き地になり、結果的に使い勝手が悪くなり、使いたい人も増えない。使う側の人たちが集まり、やりたいことをやりやすくするために、運営について話し合う場がとても重要。町には引き続き町民をサポートいただきたい。

## 5. 今後の予定・連絡事項

- ・町民懇談会は1月に第3回、2月に第4回の開催を予定している。
- ・管理運営検討会は2月、3月の開催を予定している。
- ・12/17にクラブ衆の事務局長を招いて管理運営勉強会を開催するので、ご参加いただきたい。実際にどのように運営をしているのか話を伺う。
- ・(事務局／事業受託者) ご協力いただいたプレハブの荷物について、コアメンバーにしばらく預かってもらえることになった。プレハブは雪が降る前に一旦撤去する。
- ・1月14日に歳の神に合わせてメンバー主催でイルミネーションを実施する予定。

以上